

# 彗星課月報

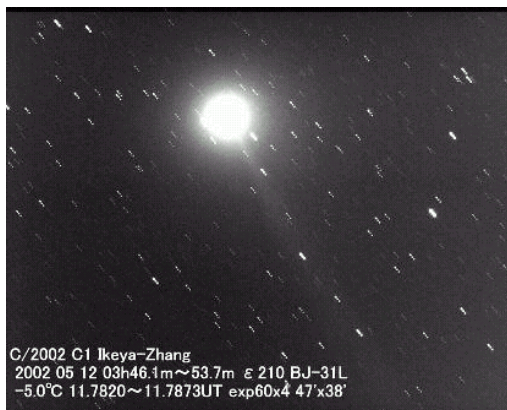
Monthly Report of the Comet Section, May, 2002

課長 関 勉 T. Seki            幹事 佐藤裕久 H. Sato  
幹事 松本敏一 T. Matsumoto    幹事 江崎裕介 Y. Ezaki

## 【5月の状況】

宇都宮彗星(C/2002 F1)は4月下旬に暁天から夕方の西天に回り込んだ。低空の観測を得意とする上尾市の門田健一氏は、4月28日近日点通過後の再観測にいち早く成功した。その後5月4日には5惑星の集合で話題となっていた西端の水星に急接近した。国内外の写真やCCD画像を見ると太い2本の尾が見られ、さながらミニ「ウエスト彗星」のようであった。ただ、西天に低く光度も次第に暗くなって行くのは残念である。一方、池谷・張彗星(C/2002 C1)は周極星となり一晩中観測が可能となった。5月1日(JST)にはスナイダー・村上彗星と2.5°まで接近した。

しかし、4月に見えていた長い尾は薄れ、小さく集光の強いコマ是集光のある大きなコマに変化してきた。だが、5月中旬頃まで肉眼で見えるとの報告もあり、しばらくは小口径での観測は可能だろう。



C/2002 C1 (Ikeya-Zhang) 2002,05,12  
三重県上野市 田中利彦氏撮像



C/2000 WM<sub>1</sub> (LINEAR) 2002,05,12  
三重県上野市 田中利彦氏撮像

次は彗星課に報告された会員による観測である。

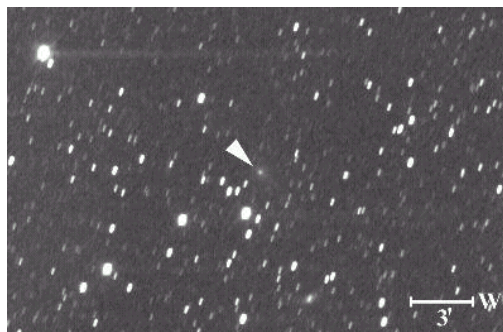
## C/2002 C1 (Ikeya-Zhang)

2002 / UT	m1	Dia	DC	Tail	Trans.	Seeing	Instrument	Observer
Apr. 12.79	3.5	15'	9	5°	3/5	4/5	53x 20cm L	黒田 修
28.52	5.3	10	6		5/5	2/5	"	"
29.50	5.4	15	5		5/5	3/5	"	"
May 2.52	5.5	18	5		5/5	1/5	"	"

その他比較的明るい彗星は、C/2000 WM<sub>1</sub> (LINEAR)、C/2001 OG<sub>108</sub> (LONEOS)、C/2002 H2 (LINEAR)、C/2000 SV<sub>74</sub> (LINEAR)、C/2001 K5 (LINEAR)などがある。



C/2002 F1 (Utsunomiya) 2002,04,28  
19h20m(JST) Exp.20s x 8, 18cm L + CCD  
埼玉県上尾市 門田健一氏撮像



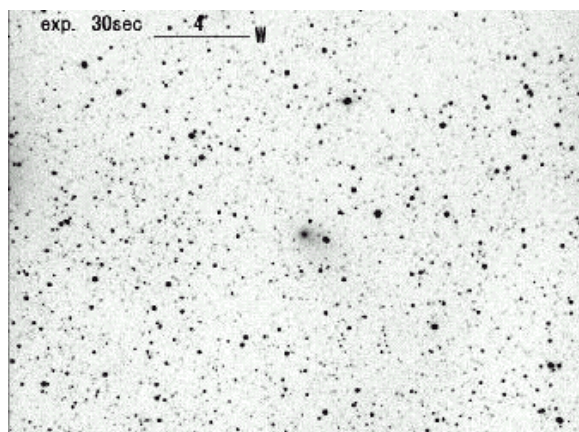
C/2002 H2 (LINEAR) 2002,05,02  
23h46m(JST) Exp.90s x 3, 18cm L + CCD  
埼玉県上尾市 門田健一氏撮像

#### 【豊中(340)における観測状況】

C/2002 E2 (Snyder-Murakami)

3月12日未明に眼視発見されたこの彗星の確認観測依頼(同日21時過ぎ発信)を見たのは23時。25時に位置推算表が発信されていたことに気づかず、発見位置と大雑把な移動方向だけを頼りに23分角四方の狭い写野で26時に掃天を開始。1時間探しても見つからず、中野主一氏に電話で概略位置を尋ね、無事捕えたのは27時頃だった。全光度12.0等、コマ視直径1分、南西へ淡く広がったコマは尾のようにも見える(写真1)。集光の強い姿で天の川の中を足早に北へ移動する姿が印象的だった。その後4月12日までに7夜の観測を行い、4月5日頃から暗くなりはじめたことを確認した。

さて、確認観測では発見位置を起点に掃天を開始したわけだが、発見位置や移動方向を知っていてさえ捕まらない。模索中のCCDによる新彗星搜索が甘いものではないと痛感したことだった。



(写真1) C/2002 E2 (Snyder-Murakami) 2002,03,12

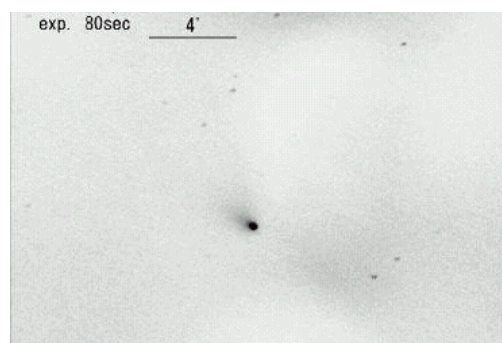
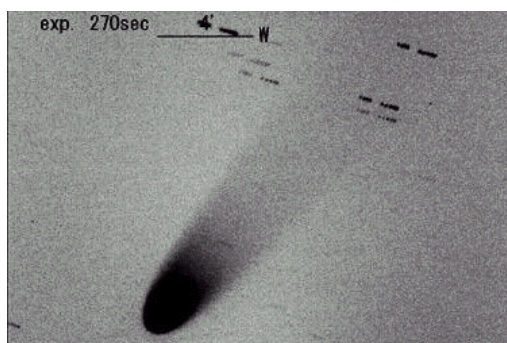
## 125P/Spacewatch

3月12日は珍しいほど透明度が良かったので C/2002 E2 の位置を報告した後、今期まだ観測のない 125P/Spacewatch を 60 秒露光で全光度 18.0 等と観測した。ところが、その後数夜に渡り追跡を試みるも見つからないまま 4月5日をもって追跡を終了した。5月20日現在、世界のどこからも観測報告がない。さほど条件の悪い位置に居座っていたわけでもなく、大口径鏡を向ければ写るはずにもかかわらず報告がないということは、皆の目が C/2002 E2 に釘付けになっていたこの日だけ明るかったのだろうか？別の天体にしてはその移動方向・量が 125P の軌道によく合っている。これが確かに 125P であったか否かは次の回帰における観測から判明するだろう。

## C/2002 F1 (Utsunomiya)

位置観測者にとって、観測数が少なく軌道の定まらない彗星、殊に発見されたばかりの彗星を観測することは最も重要な仕事である。3月20日未明に眼視発見されたこの彗星の確認依頼を見たのはそれが発信（18時過ぎ）された12時間後、夜が明けてからだった。当夜はよく晴れており、新彗星の出現を知らずに別の天体を観測していた（新彗星に近い位置まで迫っていたのである）とはまことに間の抜けたことだった。

3月30日から5月12日までに5夜観測し、4月12日には大きく成長した姿を捕えることができた（写真2）。その後も成長を続けたようだが悪天続きで観測できず、5月12日（写真3）が最終観測となった。終始観測条件の悪い位置にいたため、各地での観測数が少ない。



(写真2) C/2002 F1 (Utsunomiya) 2002,04,12 (写真3) C/2002 F1 (Utsunomiya) 2002,05,12

(写真1~3)はいずれも大阪府豊中市 江崎裕介が 30cm L + CCD で撮像

2002 / UT	m1	Dia	Tail	p.a.	Instrument
Mar. 30.82	8.6	2'	1'	300°	30cm L + CCD
Apr. 01.82	8.6	2	9	248	
05.81	8.2	1.7	10	250	
12.82	5.6	2.3	10	320	
May 12.45	7.5	1	2	70	

## 【トピックス】

松戸市の会員渡辺美和氏は、近世地方史料調査の過程で 1661 年の彗星(C/1661 C1)らしい記録を見出し、東亜天文学会東京支部の 2002 年 3 月 23 日の第 10 回例会で発表された。

紀州藩石橋家日乗（現和歌山県和歌山市）

「万治四年自正月十日比当寅卯之方有星如左自寅剋至卯初剋李蹟別録云此星名虎尾星是兵乱主星也(後略)」

渡辺氏による読み下し（万治四年正月十日ころから、寅卯の方角に左に示すような星が寅の刻から卯の刻のはじめにかけて見られた。李蹟別録にいうところの虎尾星という名であり、この星は兵乱を生ずるものである(後略)）

年代記録（現岐阜県郡上郡白鳥町）

「(寛文元辛丑)同元三月ノ初ヨリ寅卯ノ天ニ虎尾ト云星出顕ス」

渡辺氏による読み下し（寛文元年三月の初から寅卯の方角に虎尾という星が出現した。）

上記 は明らかに C/2002 C1 = C/1661 C1 と考えられる。 については年と月の記述に疑問が残る。渡辺氏が指摘するように三月の時点ではまだ万治四年のはずである。なお、「天界」に詳しいレポートが報告されるだろう。